

留学だより⑭



留学だより最終号

お久しぶりです。留学だよりも最終号になってしまいました。なんだかちょっぴり寂しい気持ちです。帰国してから半分ほどをまとめて書いてきた留学だよりでしたが、私の留学をこうして形に残せたことを嬉しく思います。さて今月は、

- 1、最後の学校の日
- 2、ホストファミリーとの再会、別れ
- 3、AFS オリエンテーション in Delhi
- 4、日本に帰ってきて
- 5、最後に

この5本立てでお送りします！ぜひ最後までお楽しみください！

1、最後の学校の日

学校に行ける最終週はホストファザーが選挙中で、相手陣営から家がマフィアに攻撃されるかもしれないという映画でしか有り得ないような状況になってしまった為、私は学校の寮に3日間泊まることになってしまいました。

最初はホストファミリーと過ごせる最後の週なのに意味のわからないマフィアによって寮で過ごさなければならないことが受け入れられませんでした、もはやマフィアに抵抗するすべがないと思い、寮で最大限楽しむことにしました。

私の最後の登校日は4月30日です。翌日は祝日で、その次の日がデリーへ出発日だったので、本当に最後の最後まで学校に通っていました。友達からは「いつが最後なの？」と何度も聞かれていましたが、いざその日を迎えると、実感が湧かないままです。

仲の良い友達20人程には、一人ずつ手紙と小さなプレゼントを用意し、それ以外の友達には大量買いしたチョコレートを配りました。そして、友達全員にシャツへ寄せ書きをしてもらいました。そのシャツは今でも大切にとってあります。

学年を問わず、10か月間仲良くしてくれた友達が、書ききれないほど寄せ書きをしてくれました。その一つひとつのメッセージから、この学校で多くの人に支えられてきたことが改めて伝わってきます。最後はクラス全員で集合写真を撮り、写ルンですでも記念の写真も撮りました。

インドに来たばかりの頃は、友達の会話がよく分からなかったり、トイレにトイレットペーパーがなかったり、厳しい校則に驚いたり、戸惑うことも多くありました。小石川で過ごしていた頃にはなかった「学校に行きたくない」と感じた日もありました。

それでも、同学年だけでなく、幼稚園の子どもたちから先輩や先生まで、唯一の留学生である私にいつも優しく接してくれました。授業や行事、日常の中でのさまざまな経験は、ここでしかできない貴重なもので、この学校が私のホストスクールで本当に良かったと思っています。



2. ホストファミリーとの再会、別れ

マフィアのこともあったため、ホストファミリーと会うのは3日ぶりでした。結局最後までマフィアが来る可能性があったため、最終日もおばあちゃんの家で過ごすことになりました。

そこで問題になるのがパッキング。1ミリもパッキングしていない状態で最終日を迎えました。期限の最後の最後まで引きのばすタイプなので、2時間でパッキングして再びおばあちゃんの家に戻って来なさいと言われた時は正直無理だろとしか思えませんでした。マフィアの危機が迫る家でのパッキングだったので火事場の底地からという感じで見事に1時間半でパッキングを終了させて家に帰りました。人間やれば出来るものなんですね。

最大の課題のパッキングを終了させて心が軽くなった私は、最後に1番仲が良かった友達3人に会いに行くことになりました。いつも通りの会話をしていつも通りのお菓子を食べて楽しんでいましたが、楽しい時間はあっという間で、ホストファミリーの迎えが来るとあついに別れなんだなと思ってみんなでハグをし合って別れました。3人ともびっくりするほど泣いていて、本当に素敵な友達に出会えてよかったなと思いました。

感動の別れの後、ホストファミリーがマフィアのこともあり、最後の時間を思うように私と過ごせなかったからといってショッピングに連れて行ってくれました。今までの馴染みの店に行って、店中のお菓子を持って帰りなさいと言って次々にカゴに放り投げて、日本の家族一人ひとりへのお土産といってインドの伝統的な服である kurta も買ってくれました。

私へのプレゼントにパンジャブ州の伝統的な布で一般的には結婚式などの大きなお祝いごとの時に贈るフルカーリーという布をプレゼントしてくれました。私がずっとインドダンスを習っていた時に欲しいと言っていたものを覚えていてくれてとても嬉しかったです。

そしてヘナタトゥー屋さんに連れて行ってもらい、両手を埋め尽くすほどの豪華なヘナタトゥーをしてもらいました。

いくら使ったか分からないほどのプレゼントを用意してくれてみんなウキウキで家に帰りましたが、パッキングを済ませ終わっていた私は再びパッキングをすることになりホストシスターと二人で 10 分間奮闘してスーツケースを閉めました。

(ちなみに荷物が重すぎて追加料金 4 万 5000 円でした。痛すぎる出費です)



次の日。とうとう出発の日です。フライトは 12 時頃だったので家を 9 時頃に出発しました。最後までホストファザーは選挙の活動で忙しく、家には帰ってこられませんでした。WhatsApp のビデオ通話で手紙を読んでもらって本当に感動しました。最後に私からもホストファミリー一人ひとりに手紙を書きました。時間が本当に限られていたので、ノートページでお粗末な感じにはなってしまいましたがホストファミリー全員が泣いてくれて、そんなに泣いてくれるとは思わなくてちょっと嬉しくもありました。

空港に到着するとついに 10 か月間過ごしてきたこの街とも別れなのかと思うと同時にホストファミリーが今まで自分をたくさん支えてくれたお陰でこんなに楽しめたのかと思うととても心寂しかったです。

文字にするには物足りないくらい寂しかったし、感謝の気持ちでいっぱいでした。最後にホストマザーとハグをして別れました。

3. AFS オリエンテーション in Delhi

出国日までの三日間は私の留学エージェントである AFS の最終オリエンテーションがありました。10 か月間一緒にインドに留学していた世界中の留学生たちと 5 か月ぶりに Delhi で再会します。最初のオリエンテーションでは英語力が全くと言っていいほどなかったの
でそこまで仲良くなることができずにもどかしく感じていましたが、10 か月を経てお互いに成長したことで最後の三日間は話が尽きませんでした。

インドの最大の魅力と言ってもいい多様な文化とその奥深さ。みんなそれぞれがインドの
違う地域に住んでいたの、習得した言語も違えば、食べ物も違って話をしていると
違う国に行っていたのではないかとさえ思います。でもみんなアメリカやドイツ、フラン
スなどインドと比べたら治安の良い国の出身の人ばかりなのでインドでは窮屈さを覚えた
留学生も少なくはありませんでしたが、それぞれがインドで努力して 10 か月間乗り越えて
きたことが伝わってきて話を聞くのがとても楽しかったです。



二日目の夜にはみんなが住んでいた地域の伝統的な衣装を着てインドダンスにのせて踊り
ました。インドの結婚式でダンス力を鍛え上げられて、インド人顔負けのノリの良さでと
っても楽しかったです。

そしてオリエンテーション最終日一室に集められて謎の封筒を受け取りました。なんだな
んだと思っていると 10 か月前の自分が留学後の自分に向けて書いた手紙でした。何を書
いていたのか全く覚えていなかったのですが、読むに堪えないぐちゃぐちゃの英語で自分
への謎の激励が綴られていました。でもそれだけ英語力も上がったと考えることにしてお
きます。

オリエンテーションが終わるとみんなともお別れです。一緒に 10 か月間留学生としてイン
ドで頑張っでこれて最高のメンバーだったと思います。皆でお互いの国に旅行した時に
はまた会おうねという約束もしました。



4. 帰国

ついに帰国です。空港に着くと最初に荷物の預け入れから始まります。ひとつの荷物を23kg以内に収めないと追加料金になってしまうので、意地でも23kg以内にしたいところですが、なんと27kgと23kg。あーやってしまった。ということで追加料金既に4万5000円を支払っている私は後がなく、頑張って閉めたスーツケースを解き放ち、4キロの減量を目指します。私の手荷物はもう既にパンパンなので同期の2人の荷物に詰め込ませていただけることになりました。最後まで2人にはお世話になってばかりでしたね。

無事23kgへの減量を達成し、空港内へ入ります。3人で最後のインド料理を食べました。そして、お土産をこれでもかと言うほど買いまくって両手パンパン、手押しのカートもパンパンという状態で最後のチャイを味わいました。

時間に余裕あるだろうと思ってゆっくりチャイを飲んでいたら名前を呼ばれてしまい3人で空港内を駆け回りました。最後までギリギリです。

無事に飛行機に搭乗すると1番仲の良かった友達からビデオ電話がかかってきてもう涙が止まりませんでした。最後飛び立つまでずっと繋いでいてくれて、インドともお別れなんだなと思いました。飛行機が飛び立ったあとは友達からの寄せ書きのシャツに書かれたメッセージや手紙を読みました。色々な人からの miss you という言葉にインドを離れたくないと心から感じました。

8時間のフライトを終え、日本に到着。日本の空気はおいしいですが、たまにインドのけたたましいクラクションと汚い空気、インド音楽で友達とで踊り狂っていた時間が恋しくなります。



5. 最後に

帰国しても永遠と書き続けていた留学だよりもこれが最終号になります。留学だよりを読んでもくださった皆様を少しでもインド沼に引きずり込めたでしょうか。元々、海外が好きで決めた留学。最初はインドを選ぶなんて自分でも考えていませんでした。ちょっとした出来心で他の人とは違う国に行きたいと思い、インドを選びました。今ではこんなにも濃い経験と、素敵な人々に支えられてインドを選んだ一年前の自分にありがとうと言いたいです。小石川では初のインド留学で、AFSでも先輩が少なく、留学前は不安に思うことも多かったです。私の留学だよりが次にインドに留学する人、高校留学を考えている人に少しでも力になれば嬉しいなと思います。

そして私の留学を支えてくれた学校の先生方、家族、友達、AFS、トビタテ！留学 Japan、ホストファミリー、数え切れないほどの方々のおかげで悔いのない充実した留学生活を送ることができました。本当にありがとうございます。

ਅਸ਼ਮਨ, ਪ੍ਰਬਸਿਮਰੰਗ ਅਤੇ ਕਿਮਾਇਆ ਨੂੰ:

ਪਿਛਲੇ ਦਸ ਮਹੀਨਿਆਂ ਤੋਂ ਮੇਰੀ ਦੇਖਭਾਲ ਕਰਨ ਲਈ ਤੁਹਾਡਾ ਬਹੁਤ ਧੰਨਵਾਦ। ਤੁਸੀਂ ਮੇਰੇ ਸਭ ਤੋਂ ਪਿਆਰੇ ਦੇਸਤ ਹੋ। ਮੈਂ ਤੁਹਾਨੂੰ ਬਹੁਤ ਪਿਆਰ ਕਰਦੀ ਹਾਂ।